

2021年7月1日

全国大学国語教育学会

2021年度 学会通信 第1号

全国大学国語教育学会事務局

全国大学国語教育学会会員の皆様

今年の夏も猛暑と予報されております。オリンピック・パラリンピックの開催日が迫る中、本学会会員の皆様におかれましては、慌ただしい毎日をお過ごしのことと拝察します。

さて、2021年度学会通信1号をお送りします。以下のご案内にあります通り、学会ホームページに会員専用のマイページをご用意いたしました。また、第141回秋季大会（世田谷大会・日本体育大学）は前回同様、オンラインにて開催いたします。『国語科教育』第九十一集の投稿につきましてもご案内いたしますので、ふるってご投稿下さい。

◆全国大学国語教育学会マイページのご案内

学会ホームページにマイページをご用意いたしました。学会ホームページよりリンクがありますので、そこから登録頂けます。「登録情報の確認・変更」「年会費の納入状況の確認」が機能としてございます。ご自宅・ご所属先に変更があった際は、マイページにログインいただき、随時変更をお願いいたします。ログインには会員番号とパスワードが必要となります。大変お手数をおかけしますが、ログイン画面中央部の「パスワードの設定はこちら」より、会員番号と学会に登録されているメールアドレスをご入力の上、パスワードの設定をお願いいたします。メールアドレスの登録が無い方、不明の方は、事務局までお問い合わせください。



マイページ登録
はこちら

●お問い合わせ先(事務局) : jtsj-post@bunken.co.jp

今後学会通信のメール配信を予定しております。その他、学会からの様々なお知らせをメールでご案内する可能性がございますので、お早めにマイページにログインいただき、メールアドレスの登録をお願い申し上げます。

第141回全国大学国語教育学会 世田谷大会（オンライン） 開催について

◆第141回全国大学国語教育学会 世田谷大会（オンライン）のご案内（第1次）

実行委員長 府川 源一郎(日本体育大学)

皆様におかれましてはお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。さて、第141回全国大学国語教育学会世田谷大会は、様々な状況に鑑み、オンラインでの開催となりました。多くの会員の皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。

1. 開催日：2021(令和3)年 10月16日(土)、10月17日(日)
2. 会 場：オンライン・世田谷大会特設サイト(10月10日前後に開設予定)
* 世田谷大会特設サイトにアクセスするためには、参加申し込みが必要です。
3. 大会事前情報等：
 - ・世田谷大会広報サイト <https://sites.google.com/view/2021setagaya>
 - ・世田谷大会広報Twitter <https://twitter.com/setagayataikai>
 - * シンポジウムや課題研究発表、公開講座に関する情報を更新していきます。

4. 二日間の概要（予定）

第1日 10月16日(土)		第2日 10月17日(日)	
9:00	開場	9:00	開場
9:30	自由研究発表 Zoomミーティング	9:30	課題研究発表 Zoomウェビナー
12:20	12:25	12:30	12:40
13:25	発表交流 Spatial Chat	13:40	若手研究交流企画 Spatial Chat
13:35	理事会	13:50	課題研究発表 アフタートーク Spatial Chat
14:35	14:45	14:35	14:45
14:35	総会 Zoomミーティング	14:35	自由研究発表 Zoomミーティング
17:45	シンポジウム Zoomウェビナー	16:40	ラウンドテーブル
		16:45	発表交流 Spatial Chat
		17:45	

※タイムテーブル、使用システム、企画内容は、変更する可能性があります。

<第1日目 10月16日(土)>

○AM 自由研究発表

○AM 公開講座

漢字と文法の学習について改めて考える① 今、漢字教育について問うべきことを探る
 コーディネーター・登壇者 富安慎吾（島根大学）
 登壇者 棚橋尚子（奈良教育大学）
 長岡由記（滋賀大学）

この公開講座では、現在、そして、これからの漢字教育について考えていくための問いを作るオンラインワークショップを実施します。前半では登壇者による話題提供を行い、後半では参加者が漢字教育に関する問いを作り、またその問いについて協同して考えるワークショップを行います。

後日、ワークショップ参加者を人数限定で募集します。これ以外に、YouTube Liveで視聴するかたちでの参加を行うことができます。詳細については、7月末に世田谷大会広報サイトおよび世田谷大会広報Twitter、研究部門広報Twitter([@jtsj_zkdg](https://twitter.com/jtsj_zkdg))等でお知らせします。

なお、公開講座は、無料で参加することができます。

○PM 発表交流 (Spatial Chat)

前回の春期大会で実施されたSpatial Chatによる交流の場を、世田谷大会でも用意しています。自由研究発表(後述5.(1)①参照)の際、Zoom発表の方は、直後の交流時間でご活用ください。紙面発表の方は、どの時間帯でも自由にご活用ください。

○PM シンポジウム

文章と図像との混成型テキストの学習を支援する、メタ言語の体系的導入の試み
—オーストラリアン・カリキュラム2021最終版に向けた取り組み事例から—

シンポジスト	Mary Macken-Horarik (メアリー・マッケン=ホラリック, University of New England) Len Unsworth (レン・アンズワース, Australian Catholic University)
コーディネーター	奥泉 香 (日本体育大学) 大滝一登 (文部科学省)
コーディネート協力	Chavalin Svetanant (チャワーリン・スウェットヌン, Macquarie University) 熊谷由理 (Smith College)

シンポジウムすべてをZoomウェビナーで視聴するのは疲れるという方のために、発表の一部を、事前に世田谷大会特設サイトからオン・デマンドでご視聴いただけるよう準備中です。詳しくは二次案内(はがきで送付予定)や、世田谷大会広報サイトをご覧ください。

<第2日目 10月17日(日)>

○AM 課題研究発表

国語教育学を見つめ直し展望する② 国語科実践研究は何を、どのような枠組みで語るべきなのか

コーディネーター・登壇者	住田勝 (大阪教育大学)
登壇者	古賀洋一 (島根県立大学) 土居正博(神奈川県川崎市立はるひ野小学校) 八田幸恵(大阪教育大学)

○PM 若手研究交流企画 (Spatial Chat)

自由研究発表
ラウンドテーブル
発表交流 (Spatial Chat)

5. 発表の募集

発表は、①自由研究発表(Zoom発表か紙面発表を選択)と②ラウンドテーブルの二種類になります。いずれも発表要旨を事前に提出する必要があります。

(1) 募集区分

①自由研究発表

「Zoom発表」「紙面発表」の二種類の方法によって実施します。いずれの方法を希望するのかを、発表申し込み時に申請してください。

○Zoom発表

- Web会議システムZoomを使用して、Web上で研究発表をする方法です。発表者は、PC等を用いてZoomを操作し、発表を行います。
- 通常の対面学会で行っていた際と同様、司会者を立て、1会場4名程度の発表者を設定します。発表時間は20分、質疑応答は10分です。Zoomの準備時間は、発表時間に含まれます(発表時間の延長はできません)。
- 発表資料は、オンライン上の世田谷大会特設サイトに掲載された4ページの発表要旨に加えて、スライドなどを画面共有で提示することができます。加えて、希望する場合は、当日資料の配付もサポートします(DropBoxによるフォルダの共有を予定)。
- 発表者へのZoomの技術的支援はありませんので、基本的な使い方については、各自事前にご確認ください。
- Zoom発表は、運営上の上限(60本程度)がある関係で先着順とします。申し込みが上限を越えた場合、紙面発表となる場合があります。

○紙面発表

- 4ページの発表要旨をもって、紙面上で研究発表する方法です。加えて、希望する場合は、当日資料の配付もサポートします(DropBoxによるフォルダの共有を予定)。
- 提出された発表要旨をオンライン上の世田谷大会特設サイトに掲載し(当日資料には画面上のリンクボタンからアクセスします)、この資料を基に、オンライン上の質疑応答システムで質疑応答を行います。「発表交流」(Spatial Chat)にご参加いただくこともできます。

②ラウンドテーブル

- コーディネーターがメンバーを決めた上で申し込んでください。
- オンラインで行えるシステム(Zoom、Google Meet等)を使用します。
- いずれのシステムを使っても構いませんが、システムの使用で発生する費用は自己負担となります(多くのシステムが無料で使用できることを前提としています)。ホスト用アカウント等は、コーディネーターがご準備ください。
- ラウンドテーブル参加者は、大会に有料で参加している参加者に限定されます。
- ラウンドテーブル参加に関わる情報は、世田谷大会特設サイト内で案内を行います。
- 発表資料は、オンライン上の、世田谷大会特設サイトに掲載された4ページの発表要旨に加えて、スライドなどを画面共有で提示することができます。加えて、希望する場合は、当日資料の配付もサポートします(DropBoxによるフォルダの共有を予定)。

(2) 申し込み方法

発表・参加申込システム<https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login> よりお申し込みください(世田谷大会広報サイトからもお入りいただけます)。申し込み開始は、7月8日(木)を予定しています。

なお、Webでの申し込みが難しい場合に限り、別のお申し込み方法をご案内します。大会ヘルプデスク(後述7. 参照)までお問い合わせください。

(3) 申し込み締切

発表申し込み締切 8月10日(火)

要旨投稿締切 9月13日(月) 正午

* 要旨について、締切日を過ぎた場合は、要旨掲載予定箇所が白紙となります。同時に、世田谷大会特設サイトへの要旨掲載も行えなくなります。ご注意ください。

(4) 申し込み上のご注意

①発表資格について

自由研究発表の発表申込者(筆頭発表者)及び共同発表者と、ラウンドテーブルの発表申込者(コーディネーター)は、本学会の会員資格を有し、年会費を納入していることが条件となります(年会費をご納入いただけない場合は、発表できません)。以下をご確認いただき、お手続きを済ませた上で申し込みをお願いします。

・今回の発表に際して、新規に入会される方

8月4日(水)までに入会申請を行い、8月9日(月)までに令和3年度の年会費をご納入ください。なお、8月9日(月)は振替休日にあたりますので、早めのご対応をお願いいたします。

・現会員の方

大会開催年度(令和3年度)までの年会費を、8月10日(火)までにご納入ください。

②その他注意事項

- ・ 締切後の発表申し込みは、一切受け付けません。
- ・ 自由研究発表の発表日指定はできません。
- ・ 発表申し込み締切後は、題目・発表者等の変更はできません(締切日までは、ご自身でシステムから修正可能)。
- ・ 発表申し込みの登録情報と要旨原稿の記載情報は、必ず一致させてください。やむを得ず変更があった場合は、必ず大会ヘルプデスクまでメールでご連絡ください。

(5) 発表申し込み時の入力項目

①自由研究発表

お申し込みは、筆頭発表者が行ってください。

- ・ 発表区分(自由研究発表を選択)
- ・ 題目・副題
- ・ 筆頭発表者の氏名(ふりがな)、所属
- ・ 共同発表者がいる場合は、その方の氏名(ふりがな)、所属
- ・ 発表形式(紙面発表かZoom発表のいずれかを選択)

②ラウンドテーブル

お申し込みは、コーディネーターが行ってください。

- 発表区分(ラウンドテーブルを選択)
- 題目・副題
- 登壇者の氏名(ふりがな)、所属、発表形式
- 共同発表者がいる場合は、その方の氏名(ふりがな)、所属

(6) 発表要旨原稿の投稿

- 発表申し込み完了後、投稿できます。
- テンプレートは、学会ホームページ(<https://www.jtsj.org/>)の「テンプレート集」に掲載してありますのでご活用ください。A4判4ページ以内になります。大会発表要旨集(6.(2)③参照)には、A4判白黒で掲載)。
- 原稿は、PDFの形式にし、発表・参加申込システムより投稿してください(投稿画面にPDF変換の装置を設置しています)。なお、文字化け等が発生することがありますので、PDF変換後の原稿は必ずご確認ください。
- 要旨原稿はPDFデータをポータルサイトに掲載します。

6. 大会の参加

(1) 申し込み方法

申し込み開始は、7月8日(木)からの予定です(開始前は、アクセスしても受付期間外のメッセージが表示されます)。

- 1) 発表・参加申込システムのログインページにアクセスする。
【発表・参加申込システム】 <https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login>
- 2) ログインIDを取得する。登録したメールアドレスに、ログインIDが記載された完了通知メールが配信される。
- 3) ログインIDと登録したメールアドレスを入力してシステムへログインする(このログインIDとメールアドレスは世田谷大会特設サイトへのログインにも使用しますので、保存・管理をお願いします)。
- 4) 申込者情報を登録する(会員としてお申し込みいただく際は、会員番号が必要となります。会員番号は、学会から会員の皆様宛に送られる封筒の宛名に記載されています)。
- 5) 事前参加申込、発表申込、要旨投稿を行う(申し込みが完了すると、登録したメールアドレスに申込完了通知メールが配信されますのでご確認ください)。

(2)大会参加費

①参加費用

以下、該当する金額をご納入ください。申し込み開始日(7月8日(木))を予定)以降、システム上で手続きを行ってください。

- (会 員) 5,000円
- (学生会員) 3,000円
- (非 会 員) 6,000円
- (学生非会員) 4,000円

※公開講座のみ参加の場合は、参加費用が不要のため、発表・参加申込システムによる参加登録は不要です。参加方法については、世田谷大会広報サイトでお知らせします。

②お支払い方法

郵便振替とクレジットカード決済のいずれかをご選択ください。

*郵便振替の場合：お振込先は、申し込み完了後に配信される完了通知メールに記載されています。郵便振替の申し込みは9月15日(水)まで、入金は9月16日(木)までにお願いいたします。

③その他注意事項

- ・発表申し込みと大会参加申し込みは別です。発表者は、必ず参加申し込みを行ってください。
- ・印刷された大会発表要旨集を希望される方は、実費(4000円・送料込み)でお求めいただけます。大会参加申し込み時に選択してください。なお、大会発表要旨集は、大会終了半年後以降に、J-stageにアップする予定です。
- ・大会参加のため、新規に本学会に入会される方は、8月30日(月)までに入会申請を行い、9月13日(月)までに年会費をご納入ください。ご入会にはお時間がかかりますので、お早めにお手続きください。

7. お問い合わせ先

●参加・発表申込・原稿投稿・諸費用に関すること

全国大学国語教育学会大会ヘルプデスク

E-mail : jtsj-desk@bunken.co.jp

FAX : 03-5227-8632

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

●年会費に関すること

全国大学国語教育学会事務局

E-mail : jtsj-post@bunken.co.jp

TEL : 03-6824-9377 FAX : 03-5227-8631

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

●第141回全国大学国語教育学会世田谷大会（オンライン）に関すること

日本体育大学 府川研究室

E-mail : fukawa@nittai.ac.jp TEL : 03-5706-0862

〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1

日本体育大学 府川源一郎宛

*問い合わせは、Eメールでお願いいたします。

◆『国語科教育』第九十一集 投稿募集について

第九十一集編集委員会

1. 投稿論文の受付期間は**2021年8月1日(日)～2021年8月31日(火)** (消印有効) です。
2. 原稿の送付先は下記の通りです。
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5
全国大学国語教育学会事務局
電話：03-5389-9377
3. 封書にはかならず「**投稿原稿在中**」と朱書き書留で郵送してください。
4. 以下の『国語科教育』投稿要領に従ってください。

「国語科教育」投稿要領（令和3年1月20日修正）

投稿論文の内容および体裁について

1. 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表、プリント類の場合はこの限りではない。なお、他誌に掲載された自らを著者とする論文と著しく重複する内容の論文を、投稿してはならない。
2. 重複投稿の禁止
本誌『国語科教育』に投稿された論文等はその採否が決定するまで国内・国外を問わず他誌に投稿することはできない。また、他誌に投稿中のものは受付けない。
3. 募集枠は、「研究論文」「実践論文」「資料」の三つのカテゴリーとする。どの枠に応募したものであるかが分かるように、そのことを題名の前に明記する。ただし、採択の枠付けに関しては、編集委員会の最終的な判断によるものとする。

研究論文：独創的な知見を含む学術研究。

実践論文：国語科の先行実践をふまえて、新たな実践の方向性や意義・価値について学術的な根拠に基づいて論じたもの。

資 料：国語科教育学に関する基礎的データや国語教育の実践・研究に関する情報を提示したもの。

4. 連続掲載は、原則として2回までとする。
5. 論文原稿は、縦書きまたは横書きで、原則としてパソコンを使用する。
6. 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として400字詰原稿用紙ほぼ40枚（8ページ分）以内とし、1ページあたりの字数・行数を次のようにする。

(1) 横書きの場合

23字×44行×2段（1ページ2,024字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）

(2) 縦書きの場合

33字×31行×2段（1ページ2,046字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）

- * 学会ホームページに記載している、**投稿原稿用のテンプレートを必ず使用すること。**
- * 引用および注の文字ポイントは本文と同じとする。ただし、図表についてはこの限りではない。
- * 図表は本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示することとし、縮小率は8割以上とする。

7. 原稿は以下の体裁で整えること。

(1) 論文本体

- * 表題の下に、投稿論文に関わるキーワードを記すこと。
- * 論文には氏名・所属等、書き手を特定できる情報は書かないこと。

(2) 注（ただし、引用のための注はつけない）

(3) 参考文献

- * 論文本体や注、参考文献に「拙稿」「拙著」など、投稿者名が判明するような記述を行わないこと。

(4) 研究助成を受けた場合の記載

- * 科学研究費等の助成を受けた場合は、書き手が特定されないように、課題番号部分を以下のように記載すること。

（例：本研究は、JSPS科研費課題番号 **** * * * * * の助成を受けた）*の数は課題番号の文字数に合わせること。

8. 引用文献の記載について

(1) 引用文献の記載方法は、原則としてAPAスタイルに準拠する。

(2) 本文中における引用の記載方法は、次の通りである。

① 著者が一人の場合は、著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

……（高橋，2010）。……（Black，1988）。

高橋（2010）は、……。Black（1988）は、……。

② 著者が二人の場合は、両方の著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

……（高橋・鈴木，2012）。……（Black & White，1992）。

高橋・鈴木（2012）は、……。Black & White（1988）は、……。

③ 同一刊行年の文献は、刊行順にa, b, c, を刊行年に付し区別する。

佐藤学（1999a）『教育時評 1997-1999』世織書房

佐藤学（1999b）『学びの快楽 ダイアログへ』世織書房

(3) 論文末に、日本語文献と非日本語文献とに分けて参考文献を記載する。日本語文献は著者の姓の五十音順に、非日本語文献は著者の姓のアルファベット順に参考文献を掲載する。翻訳文献は、非日本語文献として記載する。記載方法の例は、次の通りである。

① 学術誌の論文

石井庄司（1953）「国語教育学の完成を期して」『国語科教育』第2号，1-4.

Posner, G. J., Strike, K. A., Hewson, P. W., & Gertzog, W. A. (1982). Accommodation of a scientific conception: Towards a theory of conceptual change. *Science Education*, 66(2), 211-227.

② 書籍

全国大学国語教育学会編著（2013）『国語科教育学研究の成果と展望 2』学芸図書

大槻和夫（1997）「国語科教師における国語教育学の目的と体系」全国大学国語教育学会編『国語教育学の建設1 国語科教師教育の課題』明治図書，1-104.

Fraser, B. J., Tobin, K. G., & McRobbie, C. J. (Eds.). (2012). *Second international handbook of science education*. Dordrecht, Netherlands: Springer.

Wertsch, J. V. (1991). *Voices of the Mind: A sociocultural Approach to Mediated Action*, Cambridge, Mass: Harvard University Press. 田島信元他訳（1995）『心の声—媒介された行為への社会文化的アプローチ』福村出版.

③ オンラインからの引用

文部科学省（2011）「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm (〇年〇月〇日確認)

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2005, from Vanguard University, Department of Psychology Web site:
http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc_id=796

- (4) 本文中の文献ページ数の記載は、以下のいずれかの方法に従う。
- ① 発行年の後に「:」(コロン)を入れて「著者名(発行年:ページ)」とする
例:石井庄司(1957:2)は「○○○」と述べている。
 - ② 引用の最後にページ数を明示する。
例:石井庄司(1957)は「○○○」(p.2)と述べている。
 - ③ 注の形式(脚注,または,巻末注)で,参照する文献のページ数を明示する。
例:石井庄司(1957)は「○○○」¹と述べている。 注1. 石井庄司(1957) p.2

原稿を投稿するにあたって

9. 投稿に際しては以下のものを同封する。
- (1) 電子媒体(OS名と作成ソフト名を記載すること。USBメモリまたはSDカードによる提出が望ましい。)
 - (2) 打ち出し原稿4部(複写でよい)
 - (3) 投稿者情報(A4用紙1枚に,氏名,所属,原稿発送年月日,連絡先(電話番号,Eメールアドレス,住所),論文の表題,希望する募集枠のカテゴリーを記載したもの)
なお,提出物は原則として返却しない。
10. 更新された学会ホームページ上のテンプレートを使うこと。投稿にあたっては,特に,規定通りの字数(横書きの場合,23字×44行×2段,縦書きの場合,33字×31行×2段)となっているか,確認の上,作成,投稿をされたい。
11. 郵送に際しては書留で送付すること。また封書には氏名,所属,連絡先を記載し,表には「投稿原稿在中」と朱書すること。
12. 投稿論文は,上期においては8月1日から8月31日までの期間,下期においては3月1日から3月31日までの期間に受け付けるものとする。
13. 著作権について
本誌『国語科教育』に掲載された著作物(電子媒体への変換による利用も含む)の複製権,公衆送信権,翻訳・翻案権,二次的著作物利用権,譲渡権等は本学会に譲渡されたものとする。著作者自身のこれらの権利を拘束するものではないが,再利用する場合は事前に本学会宛に連絡をする。
14. 投稿資格について
投稿にあたっては**著者全員が会員資格を有し,当該年度までの年会費を納入していること。**

2021年3月以降の新入会員(受付順、敬称略)

玉腰 朱里、安藤 浩太、生井 さやか、横山 悦子、寺西 創、南浦 涼介、白川 治、
宮本 友弘、赫 至琪、張 雪梅、赤木 春佳、谷頭 和希、西村 聡真、勝見 慶子、
坂本 麻裕子、島田 俊哉、宮本 隆裕、加納 里紗、清田 朗裕、明比 宏樹、手塚 佳緒里、
桐山 聡、黒澤 佑司、石原 雅子、森本 和寿、小野田 雄介、片田 智香子、青木 勇也、

塚本 彩乃、上岡 眞理、廣瀬 絢、河村 紘希、宮本 淳子、海老原 拓実、久田 義純、
北村 康子、稲垣 陽文、豊島 まり絵、阿知波 杏、出口 智章、川上 由美、范 文玲、
藤本 愛捺、太田 風馬、松本 匡由、大島 静恵、遠藤 清将、土屋 和佳、田中 秀憲、
伊藤 汐里、西川 愛美、中本 菜穂子、村高 聡子、板東 俊明、常橋 大気、七ツ谷 祐太、
八田 幸恵

※万一氏名に誤記がありましたら事務局までお知らせください。